



軽自動車を超えるトレッド幅を持つ前2輪が独特の視界を形成する。スパイダーの操縦感覚は、まさしく「新体験」だ。

とにかく曲がらないし、どこへ行くか分からない。初試乗では最初の交差点で曲がれなくて、そのままつづぐ行ってしまうくらいです(笑)。そこで頭を切り換えることにしました。これはバイクじゃないし、サイドカーでもトライクでもない、別の乗り物なんだってね」

イク乗りは、バンクをさせてコーナリングすることが体に染みついていて、そこから、まったく無意識に、コーナリングのきつかけを作ろうと逆操舵をしていくんです。スパイダーはバンク角で曲がる乗り物じゃありませんから、これは無意味どころか、自分で曲がりにくくしているのと同じじゃない。それを意識するだけで、まずは随分扱いやすくなりました。限られた試乗ではそこまででしたが、これはひよつとすると奥が深い乗り物だぞ、という予感がありましたね」

そんな予感を胸に帰国した青柳さんは、一時期自社での輸入をさえ考えたと言います。

「とにかく手元で試してみたいからと、並行輸入も検討しました。ですが、B R P ジャパンに確認してみると、日本導入の計画があると言っていますね。それならアフターケア等の面からも、お客さんにとつてその方がいいに決まっていますから、待つことにしました。しかしそこから長かった！興味を持ってきてくれたお客さんには『出る出る詐欺』と言われたくらいですよ(笑)」

首を長くして待ち続けた日本導入。それが実現したのは、初試乗から5年を経た2013年のことだ。

これはマシンではない。「体験」だ。

「時間は掛かりましたが、メーカー自身の手によるものだけあって、日本仕様はしっかりと仕上がりました。さらに導入後にも、日本からのフィードバックを受けた改良が続いています。例えばエンジン冷却ですが、初期のモデルを日本の夏場の渋滞で走らせると、熱がこもって大変だったんです。そこでB R P では、停車中の水温上昇に対しては、ラジエーターファンを逆回

転させて、車両の前方に熱気を排出するような改良を行って問題を解決しました。今までのいろいろなメーカーと付き合ってきましたが、B R P はとりわけ『ユーザー寄り』の会社だと感じますね。開発スタッフの多くが自ら製品のユーザーでもあるので、自分自身の要望や不満を、どんどん製品に取り入れていくんです。開発スタッフが私生活で腰を痛めた後、乗り心地が改良されたりなんてこともあったりね(笑)」

そんなB R P が日本へ送り込んだスパイダー。その第一弾はラグジュアリー色の強い「スパイダーRT」だった。「スパイダーにはスポーツ色の強い『RS』や、RTとの中間的な存在に当たる『ST』もあるんですが、日本でのニーズを分析した結果、RTから導入が開始されたそうです。当店でも現状スパイダーの納入先はバイクからの乗り換えよりも、これ自体に興味をお持ちの方が中心ですから、正しい方針だったと思います。とは言えバイク乗りの方の関心も高まってきていますから、今後は日本でも、スポーティなモデルが増えていくことに期待したいですね」

さて、晴れて日本導入となったスパイダー。改めて走らせてみた印象を最後に聞きしてみよう。「実車が日本にやって来て、たつぷり時間をとって走らせてみることで、高感度な人たちの間で話題の折りたたみ式電動ピークル・YikeBikeの日本代理店も務めている。現在、公道走行はできないが、日本の法規制に適合させる方を模索中とのこと。



納車整備中のスパイダーを前に「私も早く回したいんですが、納車待ちの解消が優先なんです」と苦笑いする青柳代表。



高感度な人たちの間で話題の折りたたみ式電動ピークル・YikeBikeの日本代理店も務めている。現在、公道走行はできないが、日本の法規制に適合させる方を模索中とのこと。



モトコミュニティ LIRICA

国道1号線原宿交差点からもほど近い、県道23号線沿いにあるリリカ本店は、常に多くのライダーで賑わう。他にも東京都大田区に東京ショールーム、神奈川県大和市にBMW店を展開。木曜定休。
〒244-0844 神奈川県横浜市栄区田谷町 639-5
TEL 045-852-1220
URL <http://www.lirica.co.jp/>

ましたし、メディアの皆さんの意見も色々お聞きすることができました。で、結論というわけではありませんが、今感じているのは『イン・ニー』がポイントだということです。バイクの経験が長いほど、コーナーでは特にアウト側のステップに荷重してしまいがちですが、スパイダーでは体を巻き込むようにしてイン側のヒザで強くボディをホールドするんです。それによってアウト側への遠心力に対抗してライダールの姿勢が安定するので、上半身が自由になり、左手でハンドルを押し引きすることでマシンをコントロールできます。なぜ左手かと言うと、右手をスロットルコントロールに集中させるためです。これらの操作が身に付いてくると、それまでのギクシャク感が嘘のようになくなるんです。これは既存のトライクとはまったく違う操縦体験です。ライダーの皆さんにも、ぜひ頭を白紙にしてから挑戦してほしいですね。攻め甲斐のある、新しい乗り物として楽しんでもらえたらと思いますよ」

バイクの楽しさを深く知る青柳代表の言葉だけに、その「新体験」というフレーズは深い。腕自慢のライダーにこそ挑戦して欲しい。その違和感が快感に変わるまで。それがスパイダーという新体験なのだ。